

平成二十八年年度 国語（文学科 日本語日本文学専攻） 解答例

一 (二〇〇点)

問一 ①てんきよ ②書簡 ③いくえ ④変容 ⑤圧迫 ⑥しよくばい ⑦総括 ⑧ねんしゅつ ⑨どくは

問二 a 退屈をまぎらわすために何かすること b 本来の望みではない c 日数がありすぎたこと

問三 それはまさに癒されることのないまま書物に憑かれた人の心の風景に近かった。

問四 本棚は生活の必要に根ざしたのではなく、余裕があつて生まれる余計な物であるということ

問五 和装本は積み重ねられる平面的なものであるのに対し、洋装本は書架に立てて並べることができる立体的なものである。

問六 本棚は書名を一望して眺めることのできる空間を作り、どこに何を収めるかによって書物に対する愛着や馴染み具合を見せるものとなっているため、書物と所有者の関係が他人にわかる形で示されることになるということ (99字)

問七 夏目漱石が小説家としてデビューしたということ

問八 (1)境界を持った閉鎖的な空間であり、単独で読む／書くことを可能にする空間

(2)日本の伝統的建築には閉鎖的な書齋という空間は存在せず、一般民家で書齋を確保することが困難だったため。(50字)

問九 『歌よみに与ふる書』『病床六尺』『墨汁一滴』『仰臥漫録』などから一つ

二 (六〇点)

問一 ①なくて ②世間話(おしゃべり、も可) ③不審だ ④思いがけず(予想外に、も可)

問二 ア ヤ行下二段活用の動詞「聞こゆ」の已然形

イ 謙譲の補助動詞「きこゆ」の連用形

問三 をかしけれ

問四 同じ心なる人(二、三人ばかり)

問五 宵が過ぎてしまっているだろうか

問六 いろいろなことを話しながら座って夜を明かすようなことはできなかつただろうに

三 (四〇点)

問一 つひに(ついに) しめば、又は、しむれば

問二 宋人有<sub>下</sub>為<sub>二</sub>其君<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>象為<sub>二</sub>楮葉<sub>一</sub>者<sub>上</sub>

問三 宋人の作った楮葉を本物の楮葉のなかに混ぜれば区別できない。

問四 宋国の君主のために本物そっくりの楮葉を作ったこと

問五 「一人」は広く人間を指す。人間は自然界を上手にまねられるが、時間がかかってしまう。「天地・道理」は自然を表わし、「一人」に比べて容易に同じものを大量に生み出せる。